

夢の実現に向かつて

「すべてを佐渡の未来と子供たちのために」

そして、「賑わいの島づくりを」



6月の市議会定例会が、10日に招集されました。この議会では、平成16年度に新市が行う仕事やその内容が審議されています。ここでは、高野市長が開会の冒頭で発表した施政方針のあらましをお知らせします。

さが見えていません。また、農林水産業を中心とした伝統的基幹産業も、国際競争の荒波にもまれ依然として低迷を続け、景気回復のけん引役となるべき個人消費の動向についても、明るい道筋には程遠い状況です。

こうしたなか、国は地方に対して「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2003」に基づき、「三位一体の改革」を掲げ、国庫補助負担金の整理合理化、地方交付税の改革、税源移譲を含む税源配分の見直しを推し進めているところでは、

特に、本年度の地方財政計画では地方交付税と臨時財政対策債を合わせた額を対前年度比マイナス12%とする、未だかつてない厳しい計画を示し、自治体財政に大きな打撃を与えています。

このため合併直後の本市財政も大きく影響を受け、財源的に余裕のない予算編成を強いられました。

佐渡は財政上の問題だけで合併を選択したわけではありませんが、国の財政が困難な状況下、この道を選んだ佐

渡は比較的穏やかに新しい時代に対応できることになったと、安堵しているところでは、今後は、歴史的な一島一市がなされたことを受け、合併のもう一つの目的とする、佐渡のために我々は何ができるかにターゲットを絞り、住民と一体になって新しい未来を築き上げていく、先駆者の役を担わなければならないと考えているところです。

さて、新生佐渡に与えられた数多くの課題に対処するため、新市では今後の課題解決に向けた戦略を組み立て、衆知を集めて、佐渡の行政課題に取り組みたいと考えています。このことから特に、次の9項目を中心課題として捉え皆様にお示しいたします。

1「環境問題」

市民が健康で安心して生活できる社会を築くため、循環型社会の構築を目指します。

高度成長時代、佐渡も他の地域と同じように環境に過大な負荷をかけてき

はじめに

本年3月1日、それまでの佐渡島内10の市町村が、多くの苦難を乗り越えながらも念願の一島一市を成し遂げて、佐渡市誕生を迎えたところです。ここに至るまでの間、佐渡の将来を考えた数多くの議論がありました。先人達が営々と築き上げてきた佐渡を守り、さらに発展させていきたいという島民の願いがこの市町村合併に結びついたものと確信しています。

私は、この歴史的転換期に市政を担う機会を得ましたことに、大きな誇りを持つと同時に、その責任の重大さを

認識し、佐渡市勢発展に向け、各種課題に誠心誠意取り組んでまいりたいと、決意を新たにしているところです。

さて、我が国経済は、企業収益・業況の改善などにより、景気は持ち直しに向けた動きが見られるものの、雇用情勢は完全失業率が高水準で推移するなど、依然として本格的な景気回復とは程遠い状況にあります。

特に、佐渡島内の景気動向につきましては、これまで国の数次にわたった経済対策にもかかわらず、観光客入込数がここ数年80万人を割り込んだ状態に象徴されるように、島の基幹産業のひとつである観光産業に依然として明る